

光 の 家

LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設

東京光の家会報

— 145 号 —

2007 年 11 月 1 日 発行

愛は寛容であり、愛は情深い。
また、ねたむことをしない。愛は
高ぶらない、誇らない、不作法
をしない、自分の利益を求めな
い、いらだたない、恨みをいだ
かない。不義を喜ばないで真理
を喜ぶ。そして、すべてを喜び、
すべてを信じ、すべてを望み、
すべてを耐える。愛はいつまで
も絶えることがない。

コリント人への第一の手紙

第二章四～八節



運動会にて、よさこいソーランを勇壮に踊る利用者

巻頭言

福祉マインドの基本

～福祉業務と専門性～

社会福祉法人東京光の家

理事長

田中亮治

(1)

今、福祉施設の世界、特に障害者のための福祉施設は揺れに揺れています。昨年施行された「障害者自立支援法」によって、サービス提供者の施設も、そのサービスを受ける利用者(障害者)も、自己負担額の急激な増額の故に施設サービス利用を諦め、その結果、自立どころか逆に自宅に引き籠り孤独な生活におちいる例があるようです。施設は施設で「支援費」の交付方法等の改変で、かなりの減収に追い込まれ、このままでは経営上に深刻なる影響が及び、障害者福祉の低下につながるのではないかと心配しています。

それにしても、次から次へと制度が変わり、その度毎に施設はそれへの対応にせまられ、想像を越えるような事務処理に追われます。まさに、"どうしてこうなの?"と悲鳴をあげたい程になっています。

しかし、どんなであれ、福祉

会報 五言

一、案外脆かった安倍総理、毛並みが良過ぎて、恵まれて過ぎて乗り越える艱難の壁が少な過ぎたのでは？

一、日本国の目指す方向は、美しい国、義の国、何よりも愛の国であり、惻隱の情に満ちた国でありたい。

一、保守、革新、何れの語にも愛・義・真理の響きはなし。国家、社会、弱者のために私心を捨て命を捨てる偉人出でよ。

一、感動を与える政治家、信頼に足る官僚、いずこに在りや。高級車をプレゼントされ、多額の金銭を受けて何の公僕や。

一、ノーブレス・オブリージュ。高い地位にある人程良き義務的模範を示されたし。かかる権力者が一人二人と出ずれば社会は変わる。

施設は大切な業務の柱である毎日毎日の利用者 障害者 への具体的なサービス提供責務を決しておろそかにすることはできません。しかも質の高い、所謂「専門性」に裏打ちされたサービスの提供でなければならぬのです。そこで、今回はわが東京光の家が心掛けてきた「福祉マインドと専門性」について述べさせて頂きます。(次に述べることは数年前に「社内報」に書いたものを若干修正したものの。)

(2)

◎私はこの福祉の世界で、若い時から永年の間働かせて頂いています。困難な局面にはこれまで何回も何回も直面してきました。では、そのような困難をどのようにして乗り切ったのか。特別な工夫をしたとか、力のあるスポンサーに頼むなどしたのでもありません。それはただ一つの事に意を注いだだけです。聖書の神を畏れ、信じ、そ

の教えに忠実に従うことを心掛けただけです。そしてこのような基本精神を礎として現実の福祉サービスの提供のために関係者が一丸となって身を捧げてきただけです。又、専門性について言えばこうです。：「専門性のある優れた仕事」と言っても、特別に学問的なことでも、又、難しい理論のことでもない。極めて日常茶飯事なことである。毎日の業務の中で、ほんのちよつとした心配りによって容易にその専門性を発揮し得る事柄である。：福祉の現場は、高等学問や知的に難しい研究の場ではない。それは人が人を愛する実践の場である。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし』て人に奉仕する場である。：福祉とは、人をよく生かすためにあるもの。少しでも人をよく生かさない福祉などあり得ない。だから、いかなる施設であっても、その実践は人を生かしているものである。

る。その生かす度合いの大小はあるにしても、人を生かしていることに変わりはない。要は、『人を生かす大小』の問題である。優れた仕事とは、人を生かすこと大なりを指す。しかして福祉施設は、存在するだけでよいというものではない。人を生かす度合いの『大』を求めなければならぬ。『大』を求めて努力することが、施設としての社会的義務であり、責任である。この義務と責任は、その施設に所属するすべての役職員が負わなければならないものである。その実際上の態様は置かれてい

る立場によるが、「義務」と「責任」を負う点では所属する以上等しく課されているのである。ところで、わが東京光の家は環境の厳しさはどうであれ、最も大切な利用者サービスの質と量を重要視し、社会に信頼される施設づくりに心掛け、危機を乗り切る柱として今日に至りま

光の家の思い出 思いつくままに

前東京光の家嘱託医 渡辺 猛

昭和五五年一月に「東京光の家」に産業医として就職した。施設に勤めるのは初めてであり、カタカナ病名のついた園生の多いのに驚いた。神経内科系の病名が多い。整形との学際的な病名もあったが、当時は医務室に来る一人一人の園生の性格をみたり、園生の疾病について勉強した。時間がたつにつれ園内の様子も徐々に分かって来た。年配の中途失業者の中には身の不幸を嘆く人もいたが、園生は概して自分の立場を理解し、受容している様に見受けられた。特に若い人は楽しく元気に生活している様に見られた。以前に若い園生が「この食事はうまいからな」と云っているのを聞いた事がある。私は園の食事を試食した事はないが、決められた予算で多くの園生の



園生を診察する渡辺先生

胃袋を満足させるのは大変な事だと思ふ。食事課の苦労が分る。又他の職員も毎日の訓練をやさしく、根気よく、時に叱る事があつても親身に接しているのを目のあたりに見たり、又耳にした事もある。彼等の顔からは障害を持つ身の不幸を嘆いている様子は少しも見られない。食事

と園生に接する職員の態度が大いに関係しているものと思われる。

園生には正秋バンドリーダーの高橋君は別格としても歌の好きな人が多い様だ。Sさんが医務室へ来ると私は何時も彼にどんな歌を覚えたかを尋ねる。彼は立ち上がり大きな声を出して

歌い出す。手を叩いてほめるとニコニコして色々な事を話し出す。又Yさんは何時も訴えが多い。しかし彼が作業している時は真剣にとり組んでいて全く別人の様に思われた。仕事がこんなにも人を変えるものかと思つた。職員は園生のために仕事を

みつけて来たり、又製品の捌け口を探したり、職員が一丸となつて園生の為に働いている。不景気な今日、苦勞も多いものと思われる。私は在職している間に今迄知らなかつた多くの貴重な勉強をさせて貰つた。そろそろ退職しようと思つていた時に体の不調を覚えた。頻尿、口

渇、食思不振。若しやと思ひ検査したら糖が著明に出ていた。大変な事になったと思ひすぐ南部地域病院に電話して入院した。「急性過血糖症」で血糖値は基準値の四倍あつた。それから氷片を口に含み、点滴の生活となつた。

「点滴のチューブを流れるソリタTじつと見つめる再起を期して」こんな気持ちで入院していた。幸い網膜症、腎炎、末梢神経障害などの合併症もなく退院できた。

現在日本では六人に一人が糖尿病或いはその予備軍であると言われている。皆さんも健診でチェックされたら放置しないで、きちんと養生して下さい。思いつくままに書きました。在職中は皆さんにお世話になりました。厚く御礼申し上げます。



身体障害者更生施設 光の家新生園

いつも美味しく、感謝して



平成一九年度も早や半年が過ぎ、後半に入りました。今日は“食”の場面から新生園の皆さんの二コマを紹介したいと思います。

光の家の食事の特徴は“家庭の味”を大事にしている事です。年齢に応じたカロリー計算は勿論、栄養バランスを考え、野菜や旬のものを多く取り入れ、素



美味しそうなお食事を前に、みんなで「いただきます」

材の持ち味を生かして調理されています。一日三〇品目の食料を摂るのが良いと言われているが、一般家庭では毎日それを続けるのはかなり困難な事です。

一人ひとりの園生の要望や希望を聞き、少しでも皆さんが美味しく頂ける様にと工夫を凝らしています。

新入園生の方も二年二年と経ち、最初は好き嫌いの激しかったのが嘘のように、いつの間にか美味しく頂いています。強いるのではなく、皆との語らいの楽しい雰囲気、食事は自然と食欲が増すのだと思います。又、正しい食事は太り過ぎの改善にも繋がっています。

時折、食事課の職員が季節の野菜や果物のそのままの食材を触らせたり、調理の方法等の知

識を教えてください。作る側の苦労や努力、工夫の一端を知ることがあり、殆ど残菜のないのが嬉しい事です。食べる事の大好きな若い園生の“食”への興味は尽きることがありません。

しかし、大きな課題もあります。永年、新生園で取り組んでいるのは、“姿勢良く、良く噛んで”という事です。どうしても前かがみで早食い、一品食いになつてしまいがちなのです。”一

身体障害者授産施設 光の家栄光園

高まる！健康への意識

～食生活と運動の取り組み～



秋は食事がより楽しめる季節です。光の家の食事にも「松茸ご飯」「秋刀魚」など、秋の味覚を堪能できる献立が盛り沢山。利用者の日々の話題には、必ず食事が出ており、「食」の楽しさが大きい事が伺えます。

そうした中で、栄光園では加齢と共に「肥満」系の問題を抱

品食“はどれ位食べたのか分からなくなるので、一皿ひと皿を食べ終わり、次のお皿へ手をつけたというの”が、理由のよううで納得できる感もあります。

“食育”の大切さが叫ばれる時代ですが、食事の場面を通して、マナーや感謝の気持ちを忘れず、今日も「いただきます。」と元氣な声が食堂に響きます。

(新生園 生活指導係

主任 白砂 郁子

える利用者が増えてきました。

原因は余暇時間における間食の習慣化、運動の機会が少ない事等があげられます。当初は様々な場面（医療面、食事面、生活面）を通じて、健康に関する情報提供を行なうと共に、個別に具体的な方法の提示をしてきました。しかし自覚だけでは健康

に対する意識は中々高まらず、運動が必要な人ほど運動に消極的な傾向にあったのです。

そこで、健康への意識向上のため、通常の情報提供の他に、具体的な環境作りに着手しました。一つ目は、間食の元になる施設内のお店に、健康を意識できる「特保飲料」や、体に優しい食料品を取り入れ宣伝した事。二つ目は、共通場所に「エアロバイク」や「ジョーバ」等の運動器具を設置し、利用を呼びかけた事。そして三つ目は、医療面で具体的に「体重減」の指示を受けた利用者を対象に、小グループでの週一回の運動プログラムを開始した事です。今年度完成した障害者自立支援センターのリハビリ室の器具を利用し、約一時間の運動を行っています。全員での日課と異なり、職員も一緒に行なうため、一体感が生まれ、楽しく進めることが出ています。そして、このグループの活動が、一つの話題

となり、環境の配慮とも相乗効果となって、栄光園全体に「健康」への意識が高まって来ているのです。

おいしい「食事」を楽しむためには、「健康」が不可欠です。「ダイエット」は、一人では辛いけど、仲間と一緒に行なえば、少しは楽しく出来ます。課題は継続性。「健康」の輪が広がることを願って、これからも環境作りに励みます。

（栄光園 授産課

係長 中河原 達也）



運動と食事のバランスは大切です。

救護施設 光の家神愛園

身体と心を支える食事

「食欲の秋」です。今年の夏は「猛暑」、連日続いた記録的な暑さに、神愛園でもやはり食欲が落ちてしまう方もおり心配しましたが、過ごしやすい秋の到来にホッと一息ついたところ

です。

神愛園では三〇代から九〇代まで幅広い年齢層の方々が共に暮らしています。個々が抱える疾患も様々で、食事では「一般食」だけでなく、減塩・低カロリーに調理された「病弱者食」（糖尿病食・低コレステロール食等）を食べている方も多くいます。また、食事の形態も「刻み食」「極刻み食」「ペースト食」が、さらに主食についても「御飯」「柔らか御飯」「粥」と、咀嚼機能の低下・嚥下困難の方にも対応したものとなっています。また、食欲不振、急な体調



毎月、食堂巡回をして、園生の様子を見る栄養士

不良の方には、「消化食」を用意してもらうこともあります。このように、神愛園では、常にな生活棟、医務課、食事課と連携をとりながら、皆さんの食生活を支えています。

神愛園は年齢や障害の種類も様々です。行事やサークルなど



光の家での食事の工夫



では全員が一同に集まるのが年々難しくなってきました。そんな中、一日三回、同じフロアの園生が皆で一同に集まる食事時間は、皆の大切なコミュニケーションの場でもあります。「今日も美味しかったね!」「これはどんな材料でできているのかな?」等の言葉が飛び交います。美味しい食事と楽しい会話とてもあたたかい憩いの時間です。心のこもった美味しい食事は、神愛園の皆さんの身体の健康、心の健康を支えるとても大切なものです。

園生の食事に携わる職員は、一人一人の日々の食事状況をつくりと観察し、食欲の有無、嗜好の変化等、食事の状況でわかる体調の変化を見逃さないようにしています。そして、状況に応じて、医務課、食事課に連絡をとり、早急に対応できるようにしています。

(神愛園 指導課 田中 朋子)

光の家の食事は二名の栄養士と一人の食事課の職員が協力し合い、一年三六五日休まず、利用者の皆さんに「美味しい・楽しい・健康に奉仕する食事」を提供しています。そして、家庭の味を大切にし、家庭的な暖かい雰囲気の中で楽しく食べられるように心がけています。

また、利用者は毎日の食事を非常に楽しみにしているので選択食、行事食をこまめに献立の中に取り入れ、個人が楽しめる食事、季節を感じられる食事を提供しています。楽しく食事をできる環境を整えるためには各施設の生活指導係と連携を保ち、食事指導に努めるとともに、医務課とも協力して利用者の健康状態を把握する必要があります。

食事制限のある利用者に対しては病弱者食があります。この

中には減塩食・糖尿病食・低カロリー食・低コレステロール食などがあります。これらは一日に使用できる調味料が決まっているので、その範囲内で美味しい食事を提供することを心がけています。例えば煮物を調理する場合に煮汁を少なめにし、落とし蓋を利用し味を入れていきます。このようにすれば調味料が少なくても具材に味を含ませることができます。また、咀嚼が困難な利用者には刻み食・極刻み食があり、調理した料理を細かく切り食べやすくする工夫をしています。次に利用者の食事に対する意識の向上を目指し、野菜などを実際に触ってもらったり、その野菜の栄養素の話をし、これを食べれば体のどこにいいかなどをわかりやすく説明して、食事に対する関心を促し



この椎茸は、今日の夕食に使われます。

ています。そして、ひと月に二回食事課から職員が各食堂に行き、食事指導や料理の作り方、今度食べたい物のメニューを聞き、献立作成に生かしています。また、昼食時に毎日各食堂に行き、その日の料理の味付け、量など利用者の好みに合うかを聞き今後の調理の参考にしています。「今日の食事は美味しかったよ。」と言ってくれる「園生」のために「美味しい・楽しい・健康に奉仕する食事」をこれからもずっと提供することが食事課の目標です。

(食事課 槇島 伸二)

海外で学んだ日本の良さ



去る九月八日から一六日の九日間、ソウエルクラブの海外研修に参加させて頂きました。九日間でデンマーク、スウェーデン、イギリスの三カ国、六ヶ所の施設見学と意外にハードな日程の中でしたが、参加者三三名に迷惑をかけない様に心がけて付いていきました。視察した施設は、視覚障害者、グループホーム、リハビリテーション、デイセンター等の福祉全般に関する施設です。視察先では概要説明から実践の取り組みまで細かく説明があり、専門分野にわかれての訓練やリハビリ、日常生活の支援など多いところでは利用者四〇名に対しスタッフ一七〇名体制。日本と比べると驚きの数ですが、国の制度そのものが違うため比較も出来ませんし、納得も出来ません。国や市

からの援助がある所や寄付とボランティアの協力で運営をしている所とさまざまな環境でしたが、利用者の事を第一に考え、自立や機能訓練を目標にがんばっている職員の姿は日本も負けないと感じました。

町の中ではデンマークとスウェーデンには視覚障害者に対しての点字表示は駅などにあ



デンマーク「クロンボー城」の前にて

りましたが、点字ブロックは全く存在していませんでした。白杖を持っている方も見かけませんでした。視覚障害者の施設視察では、街の歴史的な建造物やレンガを敷き詰めた道路のイメージが壊れる事や、必ずヘルパーがいるとの事で考えていた事と違う思いでした。これも文化の違いなのかと思うしありません。食事課として何か食事関係の情報をお土産にと思いましたが全く見る事が出来ず残念でしたが、とても綺麗な景色や世界遺産の建造物などを見る事が出来て、写真にも残せた事や少しの間でも国の文化に触れられた事が何よりの収穫だと思えます。海外研修を通し、全国から参加した方々に出会えた事、日本の良い所を探すきっかけが出来た事など全て行かせていただいて本当に良かったと実感しています。

これだけ感じたのですが、日本（特に東京光の家）は北

車椅子の階段昇降練習
(スウェーデンのリハセンターにて)



欧より優れているのかと思います。時間で切りあげたり、優れたサービス、人材の数ではなく、工夫した中で一生懸命で汗をかきながら働く日本はやっぱり素晴らしいと思います。決して他国を批判しているのではありません。海外研修を通して経験したことをこれからの仕事に活かしたいです。この度はお忙しい中貴重な見聞の機会を与えてくださりありがとうございます。

(食事課 係長 木戸場 健二)

光の家新生園 「青空にはばたく大漁旗」

園生五二名を中心に入場行進から開会式がはじまった。日野市長の祝電を披露し、日野市社会福祉協議会々長、八王子盲学校長、法人理事長、あけぼの会保護者会々長の挨拶と続き、園生の紅組の牧君と白組の飯室君

晴れの下、五二名の園生は勿論のこと神愛園、栄光園の園生も秋の陽を浴びて走りまわり、保護者会の皆さんも職員も心地よい汗を一杯かいた一日でした。
(新生園 適応訓練係
主任 小倉 実知彰)

二人の開会宣言。いよいよ午前部の徒競走、大玉ころがしと次々と競技が続けられ、何と言っても応援合戦のあとのデモストレーション”よさこいソーラン”北の海の荒波、その中で漁をする漁師達、ラストは大漁に水揚げしたことを港に知らせる大漁旗を高々と掲げ、全員で一つの物語をおそろいの法被^{はっぴ}を着て表現しました。

今年も赤組の優勝。秋



選手宣誓をする園生

宝探しでは、園生の皆さんからの希望が多かった時計を中心に、バラエティに富んだ景品が用意されました。お目当ての景品が当たった人もそうでない人も、とても楽しそうでした。玉入れは、小学生も参加して行われたためか、予想以上に玉が多く入ってしまった、数えるのに一苦労しました。パン食いでは、我先にと必死で激走する姿が印象的でした。応援合戦は、赤組も白組も趣向を凝らした応援を

加してくれました。

大成功！ 神愛園小運動会

九月二七日(木)、講堂にて神愛園小運動会が行われました。小運動会は神愛園の園生が全員で参加できる数少ない行事の一つなので、園生の皆さんはとても楽しみにしていたようです。加えて、今回は旭が丘小学校の児童二〇名が総合学習で参加してくれました。

(神愛園 指導員 長崎 博子)



もう少しでパンに届くぞ！頑張れ！

総合的な
学習の時間

「バリアフリーを考えよう」

日野市立旭が丘小学校 教諭 網野 嘉恵

九月二七日、日野市立旭が丘小学校三年生児童三〇名が、総合の学習で「光の家」にて体験学習をさせて頂きました。

本校では、総合的な学習の時間に「バリアフリーを考えよう」の単元を設け学習を行っており、毎年「光の家」の皆様の協力を得て大変貴重な体験活動をさせて頂いております。

今年度は、神愛園の皆様と「運動会」新生園の皆様との「よさこいソーラン」を通して、子どもたちはたくさんのことを見て、感じて、学ぶことができました。「アイマスク」をしての玉入れやよさこいソーランの踊り。子どもたちは、はじめのうちはとまどい、身動きできませんでした。スタッフの方の導きにより、しだいに子どもたちは「耳」を使うようになりました。



よさこいソーランを小学生と一緒に

そして最後には、共に活動できるようにもなりました。一時間半という短い時間の中で、子どもたちは大きく大きく変わりました。このように自らが体験をし、相手の立場に立って考えられるようになることがどれ程大切か再認識いたしました。
貴重な体験をさせて頂き、心より感謝申し上げます。

自衛消防訓練審査会

大健闘！ 第三位に

九月二〇日（木）、日野自動車グラウンドにて、平成一九年度の自衛消防訓練審査会が実施されました。昨年は、光の家では初の女子隊が出場し見事、優勝しましたが、今年は女子隊には負けられないと男子隊が出場しました。七月に今年の出場メンバーが決まり、早速練習を開始しました。猛暑の八月も業務

の間を縫って毎日のように練習に励み、本番当日の朝も最終確認をするなど隊員達の意気込みは相当なものでした。そして、審査会では堂々とした演技を披露し、見事、第三位という素晴らしい成績を修めることができました。隊員の皆さん本当におめでとうございます。



火元に放水！消火作業開始します。



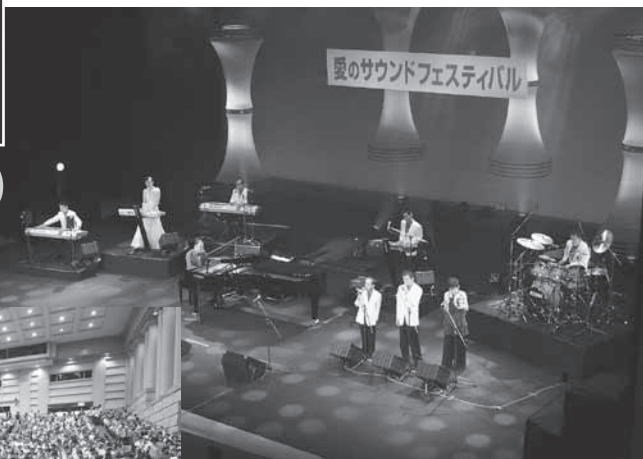
右から田中理事長、情野隊長（神愛園）、廣瀬隊長（新生園）、仲村隊長（栄光園）

正秋バンド
チャリティーコンサート
愛のサウンドフェスティバル
“希望と勇気”

平成一九年九月一日（土）、
二〇回目の正秋バンドチャリ
ティーコンサート・愛のサウン
ドフェスティバルがパルテノン
多摩大ホールにて開催されまし
た。今回は、千の風やハナミズ
キ、涙そうそうなど全一二曲を
歌いました。また、司会はテレ
ビでもお馴染みのオペラ歌手の
島田祐子さんが務め、一四〇〇
余名の満員の会場の中、盛大に
行われました。



熱唱する高橋正秋さん



愛のサウンドフェスティバルの
開幕です。



お客様でいっぱいの会場



フィナーレを迎え盛大な拍手を浴びる
正秋バンドのメンバー



司会の島田祐子さんによ
って素敵な演奏会にな
りました。

第三〇回 光の家チャリティティーバザーを終えて

今年で光の家のバザーも三〇回目を迎えました。今年是不安定な天候を心配し光の家の建物の中での実施になりました。

当日の準備では模擬店等で使用するガスボンベが納品されず、急な変更等の対応で最初は大混乱しましたが、ボランティアの方たちや職員たちの協力ですぐに落ち着きを取り戻し活気のあるいつものバザーの雰囲気の中で開催することができました。

今回のバザー開催にあたって地域の方々の提供品の協力や当日も一〇〇名以上のボランティアや保護者の積極的な協力を頂き、最終的には四〇〇万円以上も売り上げることができました。

「光の家バザー」がボランティアや地域の方々の支えと先輩職



どの売り場も大盛況

員たちが築き上げてきた伝統の力を強く感じたと同時にこれからもこの伝統を職員と地域の方達と共に守り続けたいと感じました。

大盛況のもと三〇回目のバザーを終えることができました。ことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

(食事課 小島 悟)

おめでとうございます

光の家新生園

愛甲 弘子 係長

東京都功労者表彰受賞

一〇月一日(月)、都庁にて

平成一九年度の東京都功労者表彰式が開催されました。これは教育・福祉・文化活動等、地域の発展に尽くした方々に贈られるもので、今年度、新生園の愛甲係長が光の家での功績が認められ福祉・医療・衛生功労部門で受賞されました。おめでとうございます。



寄付者名簿

平成一九年七月一日
～平成一九年九月二〇日

- | | | |
|---------------|---------------|--------|
| 遠藤 宏 様 | ブツカカパー・巾着 | 九〇枚 |
| 金子 勝江(フレンズ) 様 | スイカ | 四個 |
| 土屋 正和様 | スイカ、南瓜 | 各五個 |
| 城山鶏園 加藤 泰文様 | 卵 | 一八〇個 |
| 株式会社文化放送 様 | 野球招待券 | |
| 鈴木 富夫様 | じゃがいも、きゅうり等 | 一九・五kg |
| 西塚 卓 様 | 西瓜 | 六個 |
| 松田 功 様 | メロン一〇個 | 梨九〇個 |
| 比嘉 光子様 | パイナップル | 八個 |
| 浅石 常勝様 | メロン | 一六個 |
| 牧 洋子様 | 桃 | 七〇個 |
| 綾木 潔 様 | 梨 | 一五〇個 |
| 山下 嘉康様 | 梨 | 二八個 |
| 小林 治子様 | ベニヤ板、コンパネ | |
| 山崎 順子様 | 米 三〇kg、卵 一〇〇個 | 八二枚 |
| 鈴木 澄雄様 | 切手 | 三千五百円分 |
| 歌川 榮子様 | ワカメ | 四〇〇g |
| 東京都共同募金会 様 | リハビリ用品、鍼灸マツ | |
| 日本財団 様 | サージホーム用品等 | |
| 日本郵政公社 様 | 点字製版システム一セット | |
| 社会福祉法人 清水基金 様 | 「紙漉き和紙」設備機材 | |
| | 点字製版入力機器 一式 | |

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

やっただぜ！全国でもメダル

去る平成一九年一〇月二三日から一五日まで全国障害者スポーツ大会「秋田わか杉」大会が行われ、新生園より高橋繁さんがサウンドテーパールテニスで、宗像千恵さんが陸上で出場しました。大会直前まで良い結果が残せるだろうかと不安と緊張でいっぱいでした。

しかし、多くの方からの応援

や悔いを残したくないという思いが勝り、当日は自分たちの持っている力を遺憾なく発揮することができました。

結果は見事、二人とも上位入賞。表彰式では達成感からか、二人の一層、成長した表情を見ることができました。

(新生園 適応訓練係

目下 正美)



視覚障害者ガイドヘルパー講習 受講案内 (東京都指定研修)

～視覚障害者との歩き方・援助の仕方を学びませんか～

【日時】平成20年2月1日(金)～3日(日)

【場所】東京光の家 地域交流センター 研修室他

【費用】25,000円～ 【定員】15名 ※定員になり次第メ切

【研修修了者】研修終了後、東京都認定の視覚障害者移動介護従業者養成研修修了証明書を取得することができます。



あとがき

厳暑の夏もいつしか峠を越した。十月と共に秋の心地よい涼風が身にしみる。十月は赤い羽根共同募金の月。

光の家では「体育の日」には「チャリティーバザー」が実施される。今年は三〇回である。多くの方々と一地域の方々、ボランティア、保護者会、利用者、職員みんな一つになってバザーに取り組む。

今年の体育の日は、最悪の天候が前日から予報され、昼頃から雨になるだろう、と。そんな次第で、室内で実施となったが、予想以上の収益があった。

会報一四五号をお届けいたします。
(N・T)

発

行 〒一九一〇〇六五

東京都日野市旭が丘一七七一七
社会福祉法人 東京光の家

電話 〇四二(五八一)二三四〇

FAX 〇四二(五八一)九五六八